

會 告

日本鐵鋼協會第十回講演大會

講演者募集

來昭和八年四月初旬本會第十八回通常總會を兼第十回（春季）講演大會を催ふしますから此好機會に御出演希望の方は下記要項御含みの上奮つて御申込下さい。

昭和八年一月

開會期日日程 四月二日（日）講演會（午前の部）總會、表彰式、講演會（午後の部）
四月三日（月祭）工場見学

日本鐵鋼協會

應募講演題目及講演者氏名（壹月三十日現在）

1. 壓延機のプレッパリングをローラーベヤリングに
改裝したる結果に就て 川崎造船所製鋼工場 工學士 宗田太郎君
厚板課平鋼係技師
2. 鑄鐵の物理的性質に及ぼす燐の影響に就て（岩元正種、石黒一彦、
藤井忠二協同研究） 横濱船渠株式會社 石黒一彦君
3. 或種ピストンリングの張りに就て 横濱船渠株式會社 工學士 藤井忠二君
4. マグネシウムを含める鍛鍊用輕合金に就て 住友伸銅銅管株式會社技師 五十嵐勇君
5. 熔融狀態に於ける酸性及び鹽基性平爐鋼滓の粘性に就て（續報） 大阪工業大學助教授 工學士 松川達夫君
6. 金屬並に合金の折口に關する研究（續） 三菱造船株式會社 飯高一郎君
（鑄込み條件と折口） 研究所
7. 鐵炭酸素系反應接觸劑の共通性に就て 東北帝國大學教授 理學博士 岩瀬慶三君
8. 内部組織研究用の新らしき X 線管球と其應用 大阪工業大學助教授 理學士 篠田軍治君
9. 航空發動機用曲軸鋼の撰定並に其の使用狀態に就て 陸軍航空本部員 航空大尉 工學士 高瀬孝次君
10. 鐵の機械的性質に及ぼす滿俺の影響 明治專門學校教授 嘉村平八君
11. 減磨合金に關する研究 廣海軍工廠技師 理學士 田崎正浩君
12. 鑄鐵の熱傳導率に就て（前承） 戸畑鑄物株式會社技師 理學博士 菊田多利男君
13. 剪斷機刀先の製造法に就て 製鐵所鋼材部員 黑瀬彌君

下 記 要 項

1. 講演申込期日は昭和八年一月三十一日限り締切勵行します、同期日迄に演題と其の講演大要（二千五百字以内の概要）を必ず本會宛御送付のこと、本會にては其大要集を編纂し出席申込者へ出来る限早く配布します。
 2. 一月三十一日迄に論文の全文を御送り下されば大要は御送付に及びませぬ。此場合には論文全部の前刷を作り出席者に配布致します。
 3. 講演の詳細は本會々誌「鐵と鋼」に掲載しますから當日の御講演は 25 分以内に願ひます。
- 猶ほ實際要する時間を御申込と同時に御記入下さい。

廣 告 料 更 改 會 告

本會發行「鐵と鋼」は年々月々發行數は増加し且つ本號より形狀も日本標準規格紙仕上寸法 A 列ノ四に則したるため従前より擴大せる故次の通り更改候也

定 價		
前 付	一頁に付き	一回 金 參 拾 圓 也
後 付	一頁に付き	一回 金 貳 拾 五 圓 也
表の四	一 回	金 四 拾 五 圓 也

會 告

拜呈嚴寒の候益々御清榮奉賀候 陳者日本工學會理事長 工學博士 男爵 古市公威先生今年八十歳の壽齡を迎へ今般宮中杖 御下賜の榮に浴せられ候上更に本年は 金婚の嘉辰にも當られ居るを以て 小生等先生の厚誼を辱うする者相計りて之が祝賀の意を表し 記念品として御夫妻の肖像油繪を贈呈し以て 我工學界の宿老たる 先生の壽を賀せんと存候 就ては下記要項に隨ひ 記念品贈呈の儀に御賛同あらんことを偏に希望仕候以上得貴意候

猶本年四月向春の候を卜し祝賀會を開催し 以上記念品贈呈の 豫定に有之候

敬 具

要 項

- 一、記念品として田邊至畫伯揮毫の御夫妻の肖像油繪二面を贈呈す
 - 一、記念品醵金は一人金壹圓とす
 - 一、醵金申込及拂込期限は本年二月二十八日とす
 - 一、拂込先は東京市麴町區丸之内一丁目二番地日本工業俱樂部五階日本工學會内 古市男爵壽齡祝賀委員會 (振替口座東京 二六三六二番) とす
 - 一、醵金受取に對しては事務終了後發行の報告に依り諒承せられたし
- 昭和八年一月

古市男爵壽齡祝賀會委員

日本鑛業會 子爵 井上	四之郎助
日本鐵鋼協會 河村	一驍
土木學會 副委員長 名中	九吉 介造
火兵學會 佐山	藤內 清鎮
造船協會 藤山	嶋本 範武
建築學會 佐大	野熊 利喜
工業化學會 松龜	井山 元太
	直 郎人

衛生工業協會 關竹	藤村	國勘	助悉
電氣學會 高伊	田 藤	善	彦豐
電信電話學會 西楠	脇 瀨	吉次	久郎
機械學會 委員長 男爵 斯山	波內	忠不	三郎雄
照明學會 中上	原 岩妻	三	郎博
日本工學會 主事 三	輪	震	一

八幡製鐵所製日本鐵鋼標準試料頒布

鐵鋼の標準試料が現代分析に従事する者に取りて貴重なる事は多言を要せざる所にして既に英米獨に於ても之を製作して汎く國內に頒布し之に依て分析の誤差を是正し且分析方法の可否を判定するの用に供せらる。然るに本邦に於ては未だ其企なりし爲高價なる標準試料を海外よりの輸入に待てり。

八幡製鐵所は茲に見る所あり多大の犠牲を拂ひて之を製作し廣く官民分析所の便に供せんことを期し目下外國品に比し半額に足らざる廉價を以て之を頒布せらるることとなり特に其權威を保持せんが爲め鐵鋼學術並に技術の振興機關たる本會對し其一手頒布權を分與せられたり。今其標準試料の特色を擧ぐれば

1. 最も周到なる注意と煩瑣なる手数を拂ひて完全なる平均試料を採取し且つ試料粒の均整を期したること
2. 分析方法是日本標準分析規格を採用し權威ある官民分析所11ヶ所に依頼し各所別並に其平均分析を表示したる證明書を添附せること
其一例を示せば右表の如し
3. 試料壘は之を密封して酸化變質を防止し其外装紙筒には平均分析を記入せること（其外觀は寫眞に示す如し）

目下作製せられたる試料及價格

は次の6種なるも今後他の試料をも順次作製せらるる豫定なり。

品名	一壘の容量	價格	備考
第一號 C=0.1%	150瓦	8.00	代金の外に送料を要す。
第二號 C=0.2	150"	8.00	
第三號 C=0.4	150"	8.00	
第四號 C=0.6	150"	8.00	
第五號 C=0.8	150"	8.00	
第六號鼠銑鐵C=2.8	150"	10.00	

本會は常に相當の在庫品を準備してあるを以て各所の注文に應じ速に發送し得る用意有之候間何卒御注文あらんことを希望仕候

日本鐵鋼標準試料 分析成績

第四號 炭素鋼(C=0.6%鹽基性平爐鋼)

分析成分	炭素 C %	矽素 Si %	マンガン Mn %	磷 P %	硫黃 S %	銅 Cu %	ニッケル Ni %
標準値	0.61	0.099	0.73	0.023	0.023	0.12	0.028
分析者							
1	0.605	0.093	0.720	0.023	0.023	0.118	0.026
2	0.609	0.093	0.730	0.021	0.022	0.123	0.030
3	0.607	0.099	0.728	0.024	0.023	0.117	0.030
4	0.605	0.101	0.731	0.023	0.023	0.117	0.029
5	0.608	0.102	0.731	0.022	0.021	0.117	0.025
6	0.603	0.102	0.732	0.024	0.022	0.117	0.028
7	0.606	0.102	0.730	0.023	0.023	0.117	0.032
8	0.614	0.100	0.726	0.023	0.022	0.118	0.029
9	0.611	0.099	0.722	0.022	0.024	0.112	0.025
10	0.600	0.105	0.736	0.022	0.023	0.127	0.031
11	0.603	0.093	0.710	0.022	0.024	0.113	0.027
平均値	0.606	0.099	0.727	0.023	0.023	0.118	0.028

分析方法 日本標準規格種及鋼分析方法

日本標準規格 第55號 鐵及鋼炭素分析方法(昭和四年五月十三日 商工省告示第30號)

日本標準規格 第56號 鐵及鋼珪素分析方法(昭和四年五月十三日 商工省告示第30號)

日本標準規格 第86號 鐵及鋼「マンガン」分析方法(昭和六年十月六日 商工省告示第47號)

日本標準規格 第87號 鐵及鋼磷分析方法(昭和六年十月六日 商工省告示第47號)

(硫黃、銅及「ニッケル」分析方法規格ハ追ッテ官報ニテ告示セラル、著ナリ)

分析者 (五十名順)

- 1 大阪工業試験所
- 2 海軍技術研究所
- 3 商工省鐵山局
- 4 製鐵所
- 5 鐵道大臣官房研究所
- 6 東京工業試験所
- 7 東京帝國大學工學部(工業分析化學研究室)
- 8 東京帝國大學工學部(鑛冶化學研究室)
- 9 三井鐵山株式會社目黒試験所
- 10 財團法人理化學研究所
- 11 陸軍科學研究所

昭和七年二月

製鐵所

